

市民意識調査から導き出された課題

市では、男女共同参画の推進に関連の深い7つの項目について「男女共同参画に関する市民意識調査」を実施しました。その結果から市民のニーズや新たに取り組むべき課題などが見えてきました。以下にそれぞれの項目から見えてきた課題を示します。【注】(意●)は課題整理番号)

1 調査の概要

(1) 調査目的

男女共同参画に関する市民の意識とニーズについて、平成13年度に実施した調査(男女共同参画に関する意識調査)からの意識の変化や、社会情勢の変化に伴う新たな問題に対する意識等を調査し、「宇都宮市男女共同参画行動計画(うつのみやパートナープラン)」の見直し及び市が取り組むべき施策の基礎資料とするために実施しました。

(2) 調査項目

- 1 男女平等意識
- 2 家庭生活
- 3 社会参画
- 4 少子高齢社会
- 5 職業・就労
- 6 男女の人権
- 7 男女共同参画社会に関する施策

(3) 対象者

- ①宇都宮市在住の20歳以上の男女 3,000人
- ②旧上河内町、旧河内町在住の満20歳以上の男女 250人

(4) 調査期間

- ①平成19年1月19日～2月9日
- ②平成19年4月23日～5月18日

(5) 調査方法

郵送法によるアンケート調査

(6) 回収結果

① 旧宇都宮市

	回収数	回収率
全体	1,460	48.7%
女性	856	—
男性	559	—
性別不明	45	—

② 旧上河内町・旧河内町

	回収数	回収率
全体	133	53.2%
女性	69	—
男性	59	—
性別不明	5	—

2 調査から導き出された課題

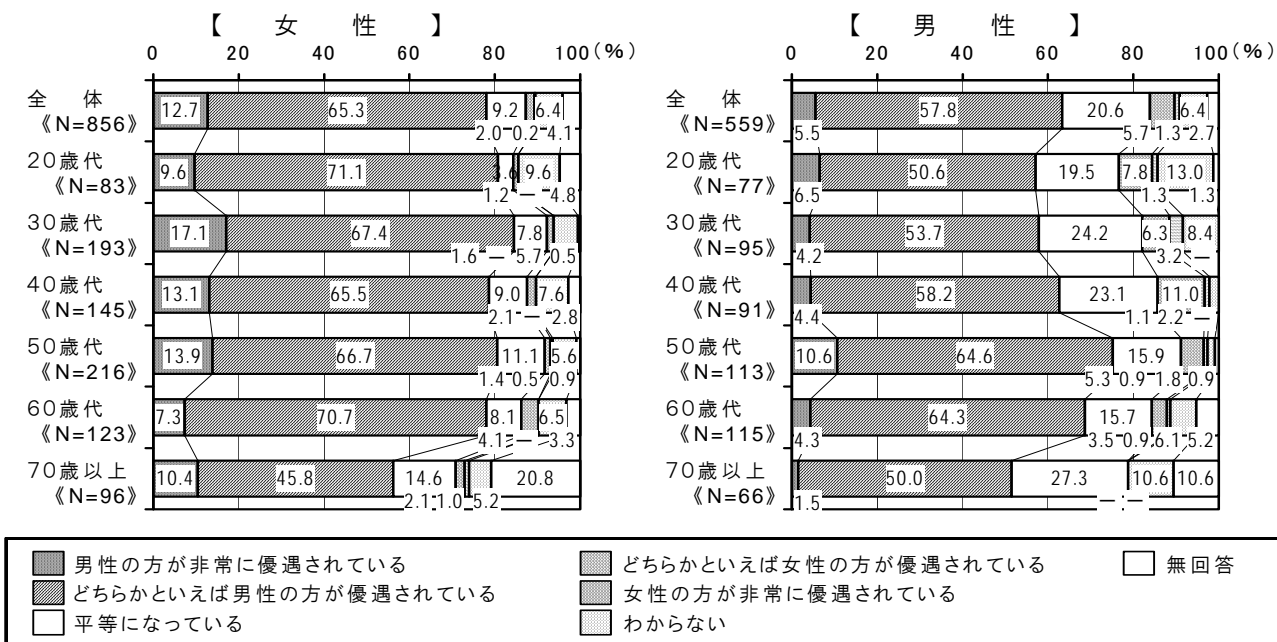
(1) 男女平等意識

課題

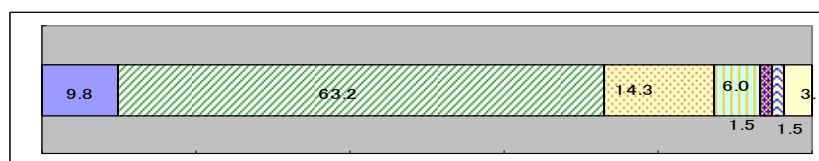
社会全体において男性優遇と感じる人は特に30代の女性で84.5%と高いことから、30代の女性が平等感を得られるよう、仕事と家庭の両立支援などターゲットを絞った施策を展開する必要があります。(意1)

資料

資料1 性・年代別各分野における男女の地位の平等感【社会全体で】



【参考資料 1】 旧上河内町，旧河内町における「男女の地位の平等感」【社会全体で】



- 男性の方が非常に優遇されている
- ▨ どちらかといえば男性の方が優遇されている
- ▤ 平等になっている
- ▥ どちらかといえば女性の方が優遇されている
- ▦ 女性の方が非常に優遇されている
- ▧ わからない
- 無回答

資料 2 30 歳代女性が思う「男女共同参画社会の実現に向けて市が力を入れるべき施策」

- 1 仕事と家庭生活の両立支援 53.9%
- 2 女性が働きやすい環境の整備 45.1%

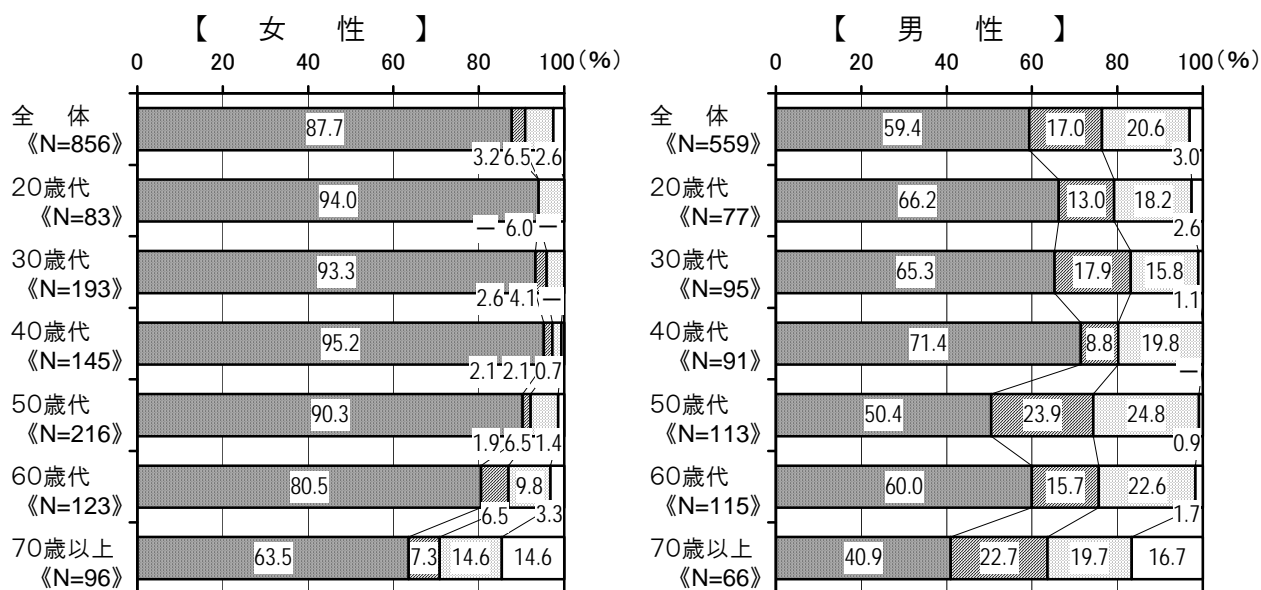
(2) 家庭生活

課題

男性の 59.4%が家事に参加したいと思っており，また，参加するために必要なこととして「夫婦間での話し合い」と「労働時間短縮や休暇制度の普及」を多くあげていることから，男性の家庭参画の支援として，夫婦間のコミュニケーションと働き方の見直しを促進する必要があります。（意 2）

資料

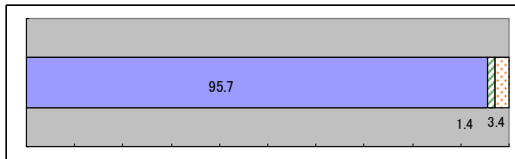
資料 3 男性の家事・子育て・介護等への参加



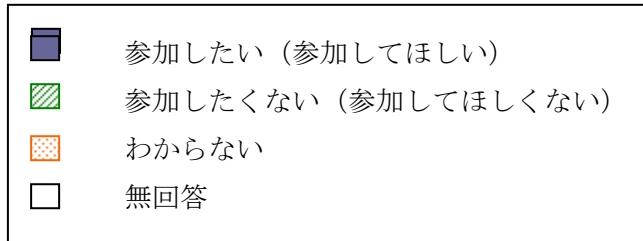
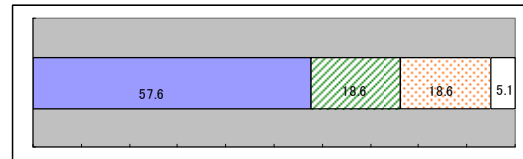
- 参加してほしい(参加したい)
- ▨ 参加してほしくない(参加したくない)
- ▤ わからない
- 無回答

【参考資料3】旧上河内町・旧河内町における「男性の家事・子育て・介護等への参加」

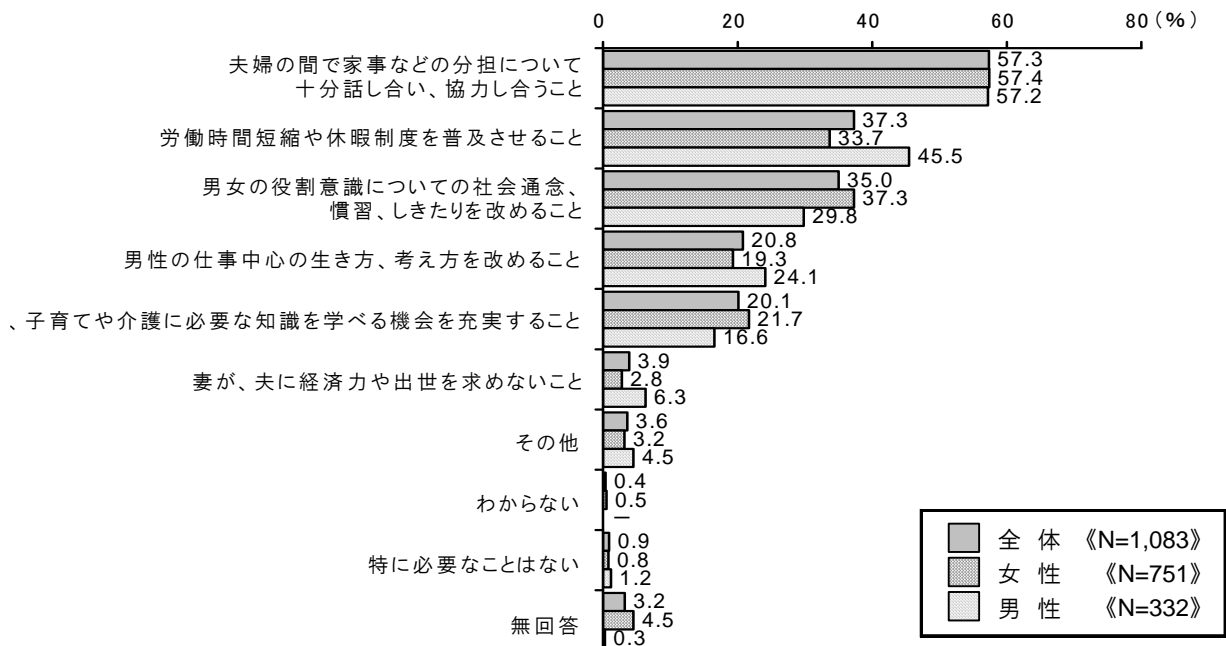
【女性】



【男性】



資料4 男性の家事・子育て・介護等への参加に必要なこと



【参考資料4】旧上河内町・旧河内町における

「男女の家事・子育て・介護等への参加に必要なこと」(上位3項目)

- ① 夫婦の間で家事などの分担について十分話し合い、協力し合うこと 32.9%
- ② 男女の役割意識についての社会通念、慣習、しきたりを改めること 16.7%
- ③ 労働時間短縮や休暇制度を普及させること 14.4%

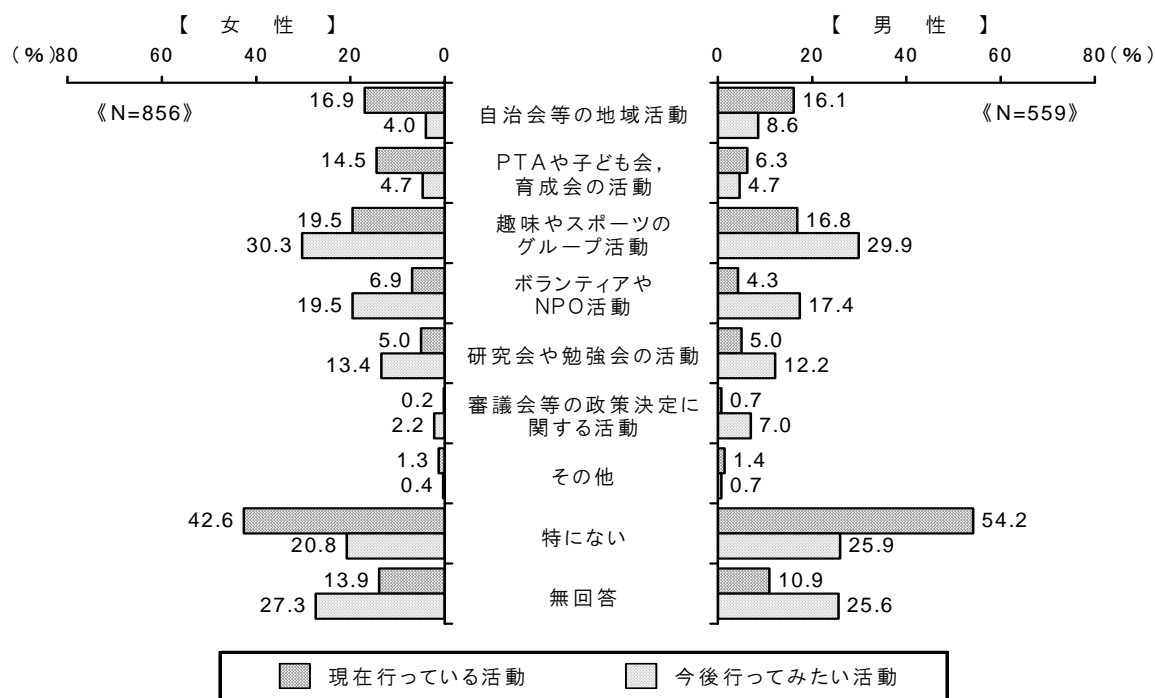
(3) 社会参画

課題

今後行ってみたい活動が「特にない」人は、男女とも前回調査（女性：30.1%，男性：32.3%）より下回っており，社会的活動への参加意向が高まっていることがうかがわれるが，現在参画できていない理由として「仕事が忙しいから」をあげる人が特に男性で多く，また前回調査（女性：21.6%，男性：33.3%）より大きく増加していることから，仕事と社会的活動を両立できるように，働き方を見直し調和を図れるようにする必要があります。（意3）

資料

資料5 社会的活動の参加状況と参加意向



【参考資料5】旧上河内町，旧河内町における「社会的活動の参加意向」

今後行ってみたい活動が「特にない」人の割合 19.9%

資料6 社会的活動に参加していない理由（上位3項目）

理由	全体	男性	女性
仕事が忙しく時間がないから	37.2%	45.5%	30.4%
健康に自信がないから	8.4%	6.9%	9.6%
出産・育児があるから	8.2%	1.0%	14.5%

【参考資料6】旧上河内町，旧河内町における「社会的活動に参加していない理由」（上位3項目）

- ① 仕事が忙しく時間がないから 38.8%
- ② やりたい活動がないから 7.5%
- ③ 出産・育児があるから 6.0%

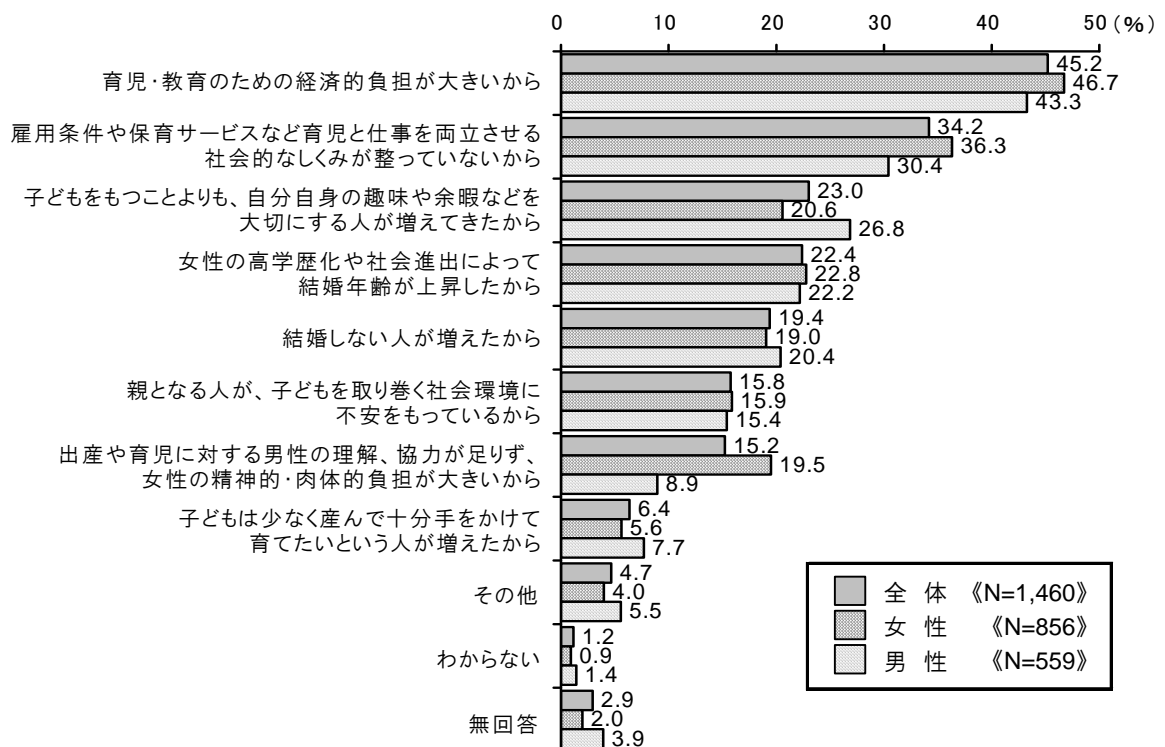
（4） 少子高齢社会

課題

少子化が進んだ理由として最も多いのは「経済的負担」で、次いで「雇用条件や保育サービスなど育児と仕事を両立させる社会的なしくみが整っていないから」が多いことから、子育て支援の充実と併せて雇用環境の整備を行う必要があります。（意4）

資料

資料7 少子化が進んだ理由



【参考資料7】旧上河内町，旧河内町における「少子化が進んだ理由」（上位3項目）

- ① 育児・教育のための経済的負担が大きいから 26.3%
- ② 雇用条件や保育サービスなど育児と仕事を両立させる社会的なしくみが整っていないから 19.2%
- ③ 子どもをもつことよりも、自分自身の趣味や余暇などを

大切にする人が増えてきたから 14.9%

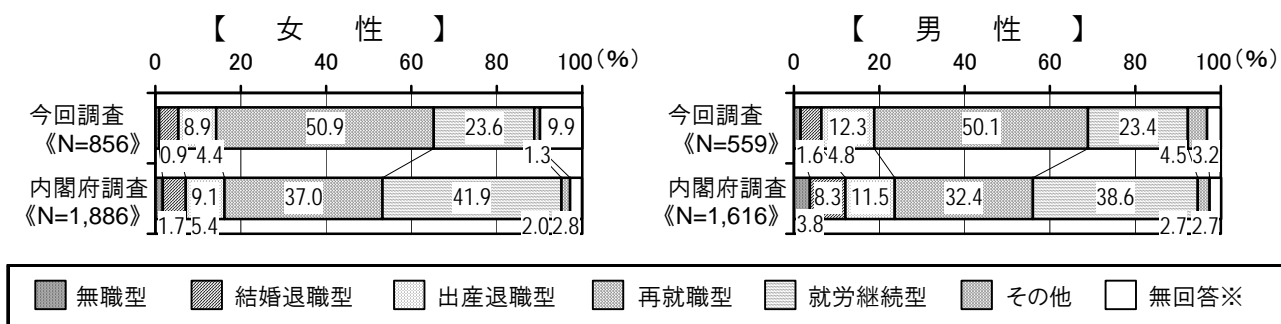
(5) 職業・就労

課題

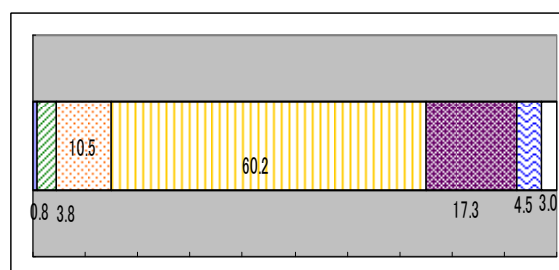
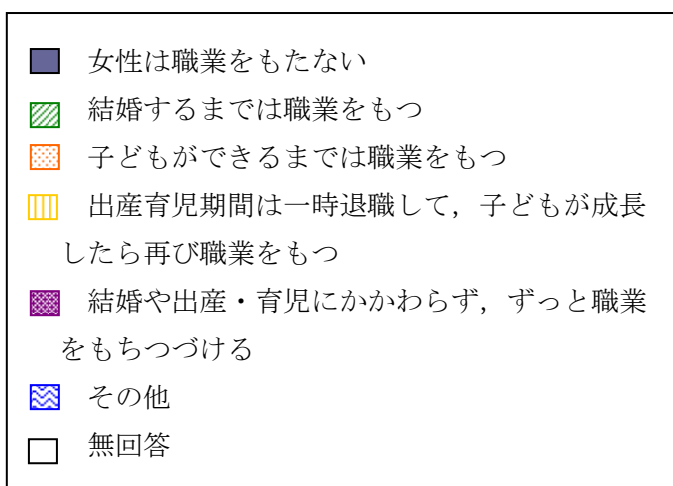
女性の働き方の理想として「再就職型」をあげる人が、内閣府調査に比べて高いという特徴があり、また、女性の再チャレンジに必要なこととして「夫の理解や家事・育児などへの参加」「子どもなどを預かってくれる施設の充実」が上位にあげられていることから、再就職を望む人を対象に、家事・育児との両立に向けた環境整備を行っていく必要があります。(意5)

資料

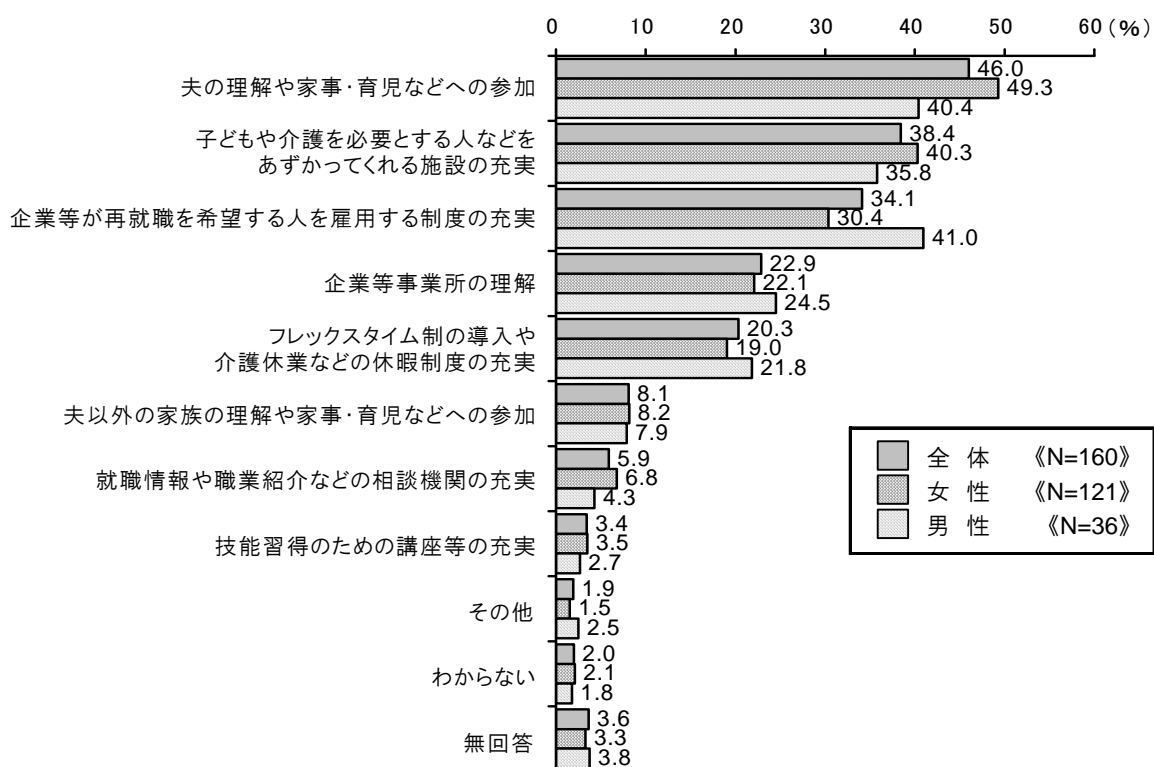
資料8 女性の働き方の理想（内閣府世論調査（平成16年）との比較）



【参考資料8】旧上河内町、旧河内町における女性の働き方の理想



資料9 女性の再チャレンジに必要なこと



【参考資料9】旧上河内町，旧河内町における「女性の再チャレンジに必要なこと」（上位3項目）

- | | |
|---------------------------------|-------|
| ① 夫の理解や家事・育児などへの参加 | 25.2% |
| ② 子どもや介護を必要とする人などをあずかってくれる施設の充実 | 21.3% |
| ③ 企業等が再就職を希望する人を雇用する制度の充実 | 18.9% |

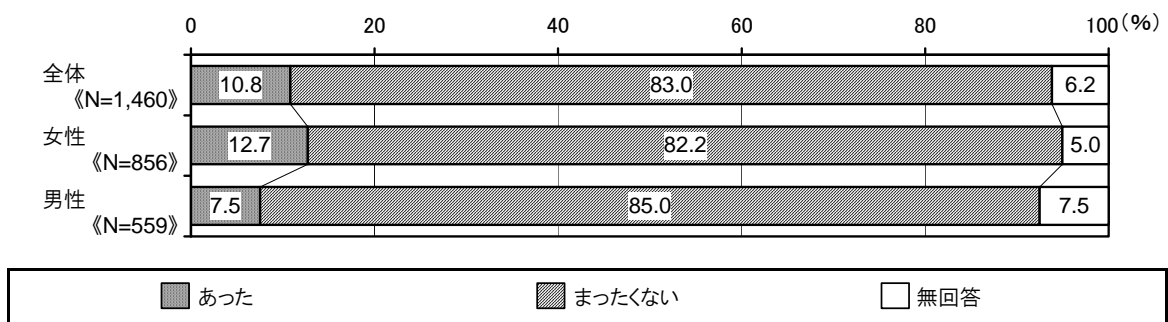
(6) 男女の人権

課題

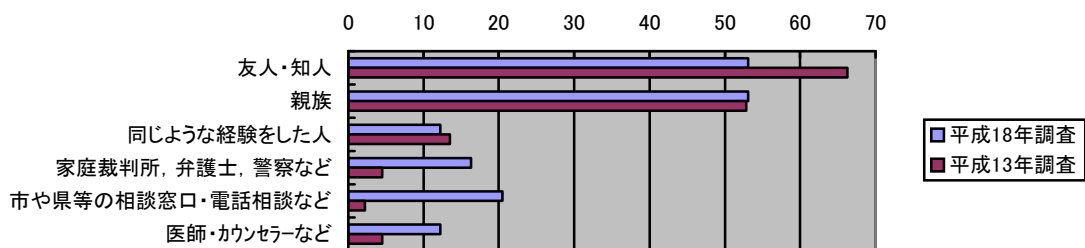
パートナーから暴力を受けたことのある女性は男性の1.7倍にのぼっています。DV被害者で公共の窓口等に相談している人の割合は前回調査と比べて増えているものの、暴力を受けた人の多くが「相談しようと思わなかった」と答えていることから、相談体制が整備されていることをさらに広く周知する必要があります。（意6）

資料

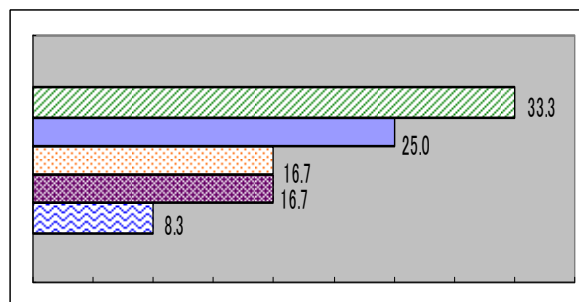
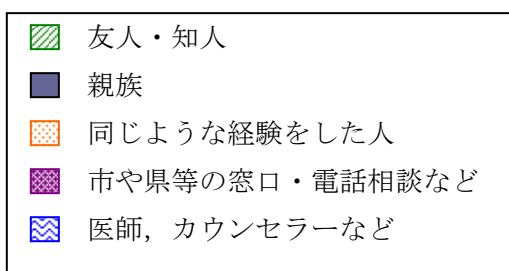
資料10 パートナーから過去2年間に暴力を受けた経験



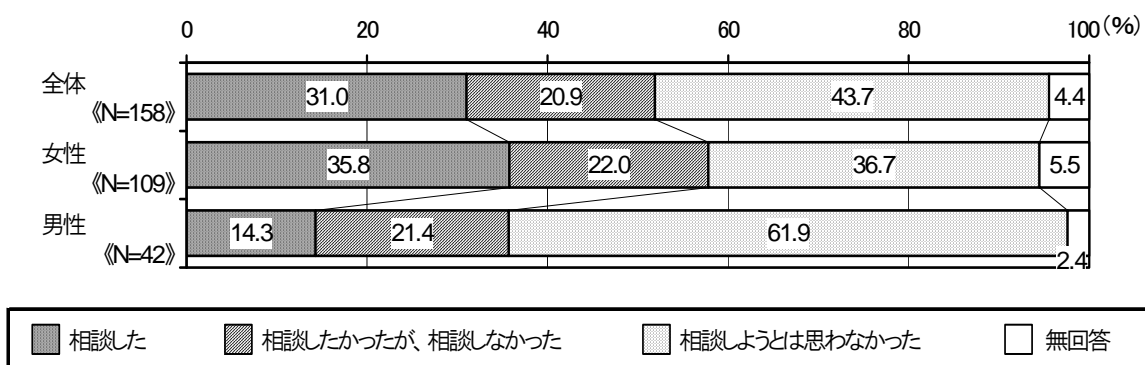
資料11 暴力を受けた人で相談した人の相談先



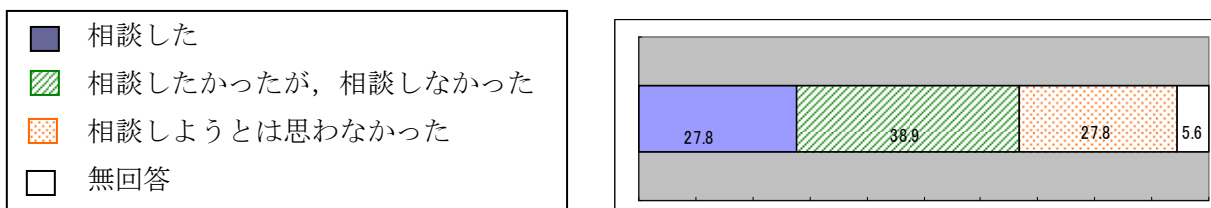
【参考資料11】旧上河内町，旧河内町における「暴力を受けた人で相談した人の相談先」



資料 1 2 相談の有無（暴力を受けた人）



【参考資料 1 2】旧上河内町，旧河内町における「相談の有無（暴力を受けた人）」



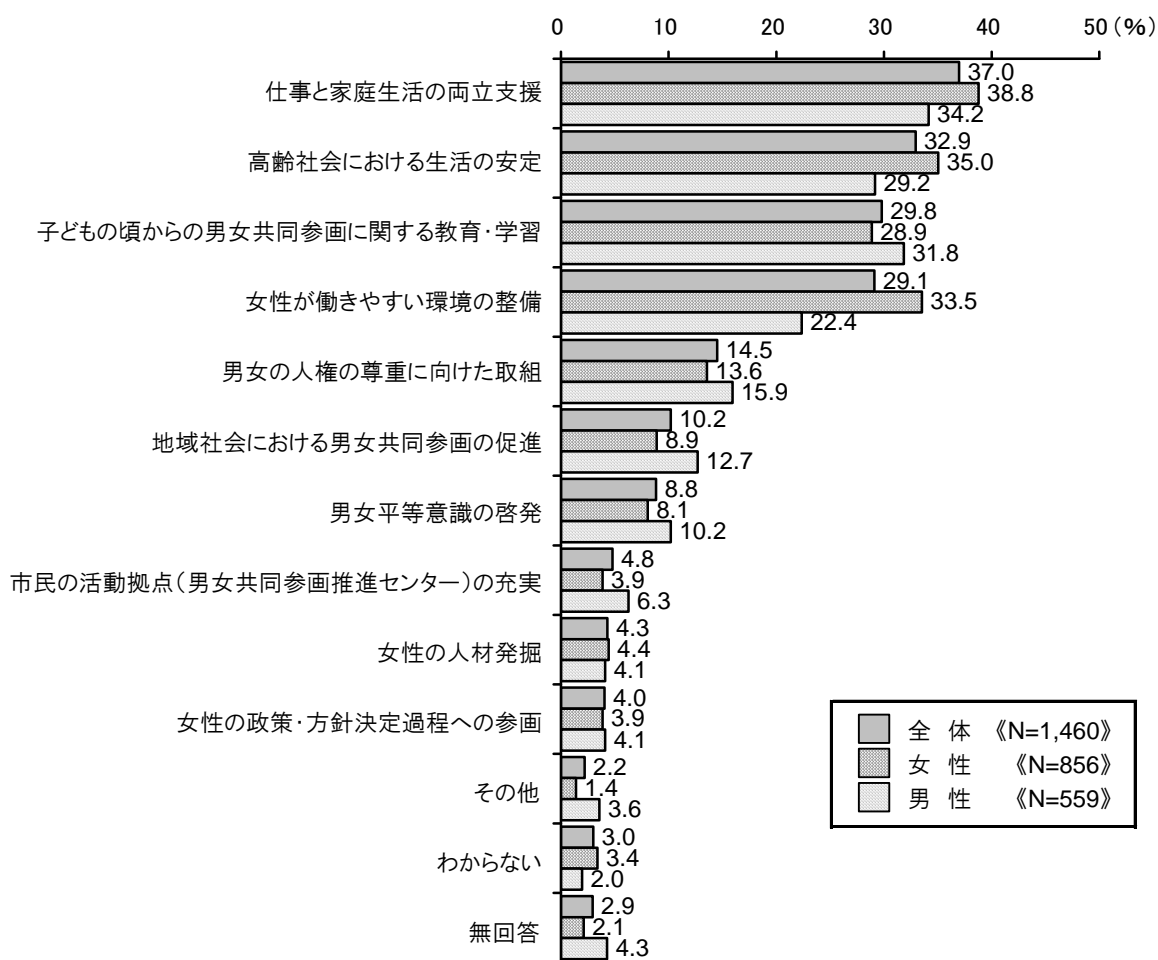
(7) 男女共同参画に関する施策

課題

男女共同参画社会の実現に向けて力を入れたらよいと思う施策の上位3項目は「仕事と家庭生活の両立支援」「高齢社会における生活の安定」「子どもの頃からの男女共同参画に関する教育・学習」となっており、これらのニーズに的確に対応する必要があります。(意7)

資料

資料13 男女共同参画社会の実現に向けて市が力を入れるべき施策



【参考資料13】旧上河内町，旧河内町における

「男女共同参画社会の実現に向けて市が力を入れるべき施策」(上位3項目)

- | | |
|---------------------------|-------|
| ① 子どもの頃からの男女共同参画に関する教育・学習 | 18.6% |
| ② 仕事と家庭生活の両立支援 | 16.6% |
| ③ 高齢社会における生活の安定 | 16.2% |